

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立三田小学校
校長氏名	黒田 昌孝
作成日	平成30年 2月 8日

1 教育目標

主体的・創造的な子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方々をゲストティーチャーとして招くこと等により、地域の教育資源を活かした学習を積極的に進める。 ○参観・懇談、PTA活動を含めた学校行事、学校開放月間等に、保護者や地域の方々の参加を積極的に促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業を核としてすべての教科等において道徳教育を充実させ規範意識を高める。 ○環境美化を心がける。 ○植物の栽培や小動物の世話に積極的に取り組む。 ○挨拶活動に積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの基礎学力の定着をはかる。 ○言語力、表現力をつけるために、自分の思いや考えを「かく」活動を授業のなかに取り入れて、関わり合う力・活用する力を伸ばす子ども主体の授業づくりを行う。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生が地域の方の田んぼをお借りして稲作(もち米づくり)を行った。初蒔きから田植え、収穫、餅つき、しめ縄作りまで、地域の方々の協力を実施することができた。 ○運動会やPTA行事には、保護者だけでなく地域の方々にも協力や参加をいただいた。 ○PTA主催の子どもまつりと餅つき大会は、地域の方々の多くにお手伝いいただき、保護者、地域の方々の参加で大盛況であった。 ○学校便りを毎月発行し、連絡所にも置いていただくなどして、行った行事の様子や行事予定等についてお知らせした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○10月の学習参観において道徳の授業を中心とした人権学習を全学年で行った。 ○登下校時には、見守り隊の方々にも積極的に子どもたちに話しかけていただいた。 ○また、旗当番としてPTAの方々にも信号で子どもを迎えていただいた。校長も登下校時に正門前で挨拶を行った。 ○校庭には委員会活動を中心に花を絶やさないようにした。また、各学年で野菜作りも行い調理実習を行うなど、学習園を計画的に使用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学では「読み聞かせ、読書、視写、漢字」を中心として各学年・学級の実態にあわせて行い、午後からの基礎学では算数の計算等の復習を中心に、基礎、基本の定着をはかること、作文指導に取り組んだ。また、4年生以上では学力テストの過去問や関連問題についても学習した。 ○子どもたちに表現力をつけるために、校内研究授業では、1時間の授業のなか「書くこと」を取り入れ、自分の考えが書け、それが発表等の表現につながるよう取り組んできた。また、「書く」ことに慣れるよう、数多くの場面で「書く」活動を取り入れてきた。
----------	--	--	---

取組の成果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事やPTA行事(子ども祭り、餅つき大会)は大盛況であった。子ども祭には出店を、餅つき大会では指導者と地域の方々の協力が不可欠であった。今後も地域の方々に学校にかかわっていただけるよう協力をお願いしていきたい。 ○学校開放週間には、子どもたちの作品だけでなく地域の方々の作品も多数出品いただいた。しかし、土曜参観以外の日には来校者が少なかったため、もっと多くの方々に来ていただけるような取り組みやお知らせ(広報活動)をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権参観では懇談会に残っていた方が少なかったため、多くの方に参加していただけるような工夫が今後必要である。 ○1年生と鶴亀会(地域の年配の方々)の交流は昔遊びを教えてもらったり、一緒に給食を食べたりして、やさしさに触れることができたとともに相手の思いを知ったりする貴重な交流となった。また、4年生にワウクラスの方々に来ていただき犬を通して命の大切さを学習することができた。 ○ずいぶん多くの子が挨拶を返せるようになってきた。積極的に自分から挨拶できるようになってきた。しかし、決まった人への挨拶だけにとどまる子どもも多く、これが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学の「読書、視写、漢字の学習」に関しては子どもたちに文字や文章に慣れさせることができたとともに、静かに1時間目の学習に入ることもできた。また、基礎学タイムについては、少しでも長い文を書いたり、自分の思いを綴ったりと、各学年で子どもたちの実情に応じて、工夫して取り組むことができた。 ○研究授業では「書くこと」を取り入れた学習を行い協議してきた。子どもたち一人ひとりが自分の考えをみんなに伝えることができるように、そして、話し合い活動を通して考えが深められるようにと研究を継続していきたい。
-------------	---	--	---

次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ○要望があれば協力していただける地域の方々があるため、○○名人(野菜作り名人や裁縫名人等)として学校に来ていただき、ゲストティーチャーとして授業のなかでさらに関わっていただける機会を設けていきたい。 ○参観日にはたくさんの保護者の方々に来ていただけたが、学校開放週間には来校していただけた保護者が少なかった。より多くの方々に来ていただけるような学年や学級の取り組みやお知らせを行ってきたい。 ○保護者や地域の方々に、学校の様子や子どもたちの活動の様子など、機会をとらえてさらなる情報発信を行ってきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権学習に関する重要性和その取り組み内容について、保護者の皆さんに知っていただけるようお知らせすることが大切である。 ○人との出会いが心の成長に与える影響が大きく、また、学習効果を高めることにもつながるため、授業のなかで、子どもたちの心に響く人との出会い(ゲストティーチャー招聘)を今後も全学年で行ってきたい。 ○挨拶については、全教職員で範を示していくとともに、挨拶の重要性について子どもたちに絶えず話していくようにしたい。また、今後は児童会を巻き込んだ「あいさつ運動」を展開して、あいさつの輪をどんどん広げていきたいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的、基本的な知識技能の習得は重要であり、また、子ども一人ひとりに基礎学力をつけていく必要があるため、今後とも工夫改善を加えて継続して取り組んでいく。また、子ども一人ひとりの実情を把握し、また学級の傾向も加味し、内容はもちろんのこと問題量や時間配分などについても工夫していくことが大切であると考えている。 ○子どもたちの実態から、子ども一人ひとりに言語力・表現力が身につくよう、さらに教職員が一丸となって現職教育での取組む方向や内容を探るとともに、退職校長をはじめとして経験者に指導を仰ぎながら、研修を深めていきたい。
-----------------	---	--	--

4 その他の課題

○授業参観には多くの保護者の皆様に来ていただけるのですが、その後の学級懇談会は、参加していただける方が少ないという現状です。一人でも多くの保護者の方に参加していただけるよう、「魅力ある懇談会」になるような工夫について、探っていききたいと思います。